



第56回関東高体連大会

初夏の風吹き抜ける好天のもと、恒例の高校強歩大会が行われました。今年度は起伏に富んだ「富加コース」に全校生徒が挑戦しました。肥田瀬街道を東へ。富加、蜂屋の田圃地帯を駆け抜けて日本昭和村を左に見ながら美濃加茂市山之上町へと丘陵地を上り、次には三和町の清流の谷へ下る仲々の難関コースでしたが、関高魂を発揮して無事に学校へと帰りついたので顔にも完走の喜びと今後の学校生活への自信とがあふれていました。

交通安全や走路の安全確保、生徒の体力管理等考慮すべき多くの課題はありますが、関高生としての実感と誇りを確かめられる絶好の機会であり、フロンティア・ハイスクール関高の基盤となる伝統行事として、さらなる歩みを刻んで行くことと思われまふ。

十七年度卒業生の進路状況

今春の卒業生355名は、関高の名を全国に轟かせてくれました。国公立大学合格者が、前年比約1.5倍の現役152名、過年度生を含めると167名という関高史上初の快挙を成し遂げられました。

現役生の合格延べ数は、国公立4大152名、私立四大636名、国公立短大10名、私立短大20名、専門学校など

39名と、非常に素晴らしい結果となりました。主な国公立大学では、東京1名、京都2名、名古屋18名、岐阜40名、名古屋工業1名、など大健闘し関高の名をさらに高めてくれました。主な私大は、慶応義塾2名、早稲田9名、南山36名、同志社25名などでした。また、過年度生も、名古屋3名、慶應と早稲田3名ずつなど自分の夢を諦めずに実現してくれましたことを付け加えておきます。

「どこでも行きたい大学に進学できる関高」という学校目標に至る道程を大きく前進したことを、生徒・保護者、同窓生の皆様、そして地域の方々と共に喜びたいと思います。



“談話風発” 生徒会執行部

と友情のほとばしる高校生活の華とも言ふべき季節を迎えました。今年は九月五日の文化祭をスタートに、七日の体育祭までの三日間、シリアスな演劇あり、華やかなダンスあり、綿密なデータに裏づけ

られた研究発表ありの、文字どおり文化の「祭典」が繰り広げられました。スローガンに掲げた通り、「五〇年の想いを未来へ」とつないでくれる素晴らしい学校祭でした。

同窓会委員

- 高五十八回生(平成十八年三月卒業)
- | | |
|-----|------------|
| 一組 | 西尾 哲歩 (幹事) |
| 二組 | 榎井 沙紀 |
| 三組 | 坂井 泰詞 |
| 四組 | 長谷部雅也 |
| 五組 | 後藤 麻有 |
| 六組 | 篠田 浩 |
| 七組 | 服部 高志 |
| 八組 | 土屋 雄介 |
| 九組 | 水野 貴嗣 |
| 十組 | 西部百合絵 |
| 十一組 | 川野 昭哉 |
| 十二組 | 村井 由実 |
| 十三組 | 西村 匡弘 |
| 十四組 | 森 香織 |
| 十五組 | 岩田あすか (幹事) |
| 十六組 | 佐藤 秀哉 |
| 十七組 | 石原 由恵 |
| 十八組 | 塚原 基彰 |

平成十八年度同窓職員異動

- 【転出】
- 教諭(芸術) 高井 律子 (高24回)
- 教諭(保健・体育) 米山英津子 (高28回)
- 【転入】
- 教諭(地歴・公民) 日野 順徳 (高19回)
- 常勤講師(養護) 田下 真有 (高54回)



第38号 発行所

関高等学校同窓会
岐阜県関市桜ヶ丘2丁目
郵便番号 501-3903
電話 (0575) 22-5688
FAX (0575) 23-7089

〈校訓〉
進 取
至 誠
錬 磨



学校長 岡崎 久先生

「関高校」の教育に情熱を、さらなる発展を

先生等が生徒に「医学概論」、「中国語特講」の授業を全国に先駆けて行ってきたさつています。その教育的成果が期待されます。

本校は、「21世紀のグローバル社会の中で活躍する知・徳・体の調和のとれた人間性豊かなたくましい生徒の育成」を目指しています。

生徒にとって本校の学舎での高校3年間は、人生でかけがえのない時間です。有意義な充実した高校生活を過ごし、将来各界で活躍してくれることを願っています。より質の高い教育を目指して教職員一同全力投球で生徒の教育に情熱を注ぎ、関高校の名声をますます高めていきたいと思ひます。母校へのさらなるご支援をお願いいたしますとともに、みなさまのご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

夏の陽ざしが早くも降り注ぐ6月18日の午前11時より平成18年度同窓会総会が開催されました。会場には岡崎久校長先生、平井正春教頭先生、平田邦保事務部長さんが休日にもかかわらず駆けつけてくださり、同窓会側からは新旧役員および当番幹事の高校16・17回生を中心に多数の同窓会員の皆様が参加されました。

夏が近づいているとのことでした。今春の大学合格実績が過去最高の数値を示したこと、フロンティア事業への取り組みを全国に発表されたこと、その結果他県からの学校訪問の申し込みが続々と届いていること等、同窓生にとつても嬉しく誇らしいご報告を頂きました。

その後議事に移り、平成17年度の事業報告・同会計報告および監査報告を経て新役員の選出があり、平成18年度事業計画案および同予算案についての審議が行われました。今年度も9月に全国支部連絡協議会、10月に第2回本部役員会を予定しております。関係者の皆様のご協力をお願い致します。また、今年度は2年に一度の会費納入の



新役員挨拶



受け付けは高16・17回生

平成18年度役員紹介

- 会長 林 隆一 (高18回)
- 副会長 奥田 正子 (女16回)
- 書記 山田登美子 (高9回)
- 書記 藤井 由子 (高10回)
- 会計 山田 武司 (高13回)
- 監査 加藤 隆志 (高14回)
- 長谷川勝彦 (高15回)
- 井上 博文 (高16回)
- 伊佐地正克 (高17回)

- 副会長 杉浦 孝志 (高19回)
- 坂井 寛司 (高20回)
- 伊佐地秀一 (高21回)
- 鈴木 良春 (高22回)
- 山田 正樹 (高24回)
- 浅野登代子 (高10回)
- 加藤 洋子 (高13回)
- 後藤 房 (女25回)
- 西尾 武彦 (高17回)
- 小川 淳二 (高9回)
- 山田 房康 (高21回)



高24回生 中国語特講

ム合金の研究をしています。金属は一見ただの硬い塊ですが、その中には「ミクロ・ナノ組織」と呼ばれる金属材料の強さや様々な性質に影響を与える物質の素が詰まっています。温度や力等を加えるとそれらが成長するのです。それはまさに水を注ぐと種子から芽がでて花が咲く植物のようです。私はこの金属の不思議に魅せられて、朝から晩まで原子の配列を見る能力のある電子顕微鏡を使って研究を続けています。

私の専門は材料組織制御工学と言いますが、ナノメートル^(10⁻⁹m)という単位でアルミを強くする物質を探してコントロールする「ナノテク」という技術を使っています。最近アルミ材料が自動車の車体に使われ始めたため、私の研究が世界中の注目の的になりました。アルミの比重は鉄の1/3なので車体を軽くして燃費を改善するには最適なのです。昨年には富山県と軽金属学会より賞まいたいただきました。また大学のベンチャー計画として新たに超伝導性能を持つアルミ材料も発明しました。これは医療用MRIや新エネルギー源として注目される核融合炉の超伝導コイルとしての利用が期待されています。



2004年9月ポーランドで開催した材料解析セミナーにて。前列右から3人目が筆者。

例えば今ではパソコンや「写真」が簡単に使えますが、その裏には集積回路やデータを記録する媒体の高性能化と超小型化など膨大な材料工学の研究成果があります。材料工学は人類の幸福な生活とすべての産業・経済活動を支える根幹であり、地球温暖化防止と枯渇する化石燃料に代わる新たなエネルギー源の開発のために必要不可欠な学問分野です。私達は学部・大学院の学生と昼夜を問わず研究を続けています。一緒に取り組みたいと思われる多くの若い皆さんの参加を心よりお待ちしております。

最後に私の所属する富山大学工学部物質生命システム工学科材料工学コースについての詳細はぜひ下記のホームページをご覧ください。

<http://epic.eng.toyama-u.ac.jp/matlife/material/newer/index>

Always

～桜ヶ丘二丁目一番地～

坂田 實 (旧職員)

二十七年に及ぶ関高勤務は私の思い出の宝です。ここ桜ヶ丘二丁目一番地の関高で人生の難関を乗り越えていた生徒の話を紹介します。

昭和三十九年四月、辞令を受けて関口駅に降り立つと埃の立つ広い道の先に大きな校舎が見えました。手前には二、三軒の民家があるのみ。私の教師生活の始まりの風景でした。

入学式前は第十三回強歩大会の準備で右往左往しながら、体育科の故北野先生について大会資料の作成やコースの下見に明け暮れました。自転車に石炭とライン引き、救急具を積んだの奮闘でした。その年は伊深一下麻生―美濃加茂そして関高帰着という四十五kmの東コースで、私は千余名の参加生徒の最後尾の担当でした。

昼食時には体育科主任の故鈴木先生から奥様手作りの握り飯を頂きながら、強歩大会への思いをお聞きしました。「関高のあの広いグラウンドも、全校生徒が整地して石を拾った。校舎を包む木立も生徒が造った。そして心は、私達が生徒と組み合って育ててやらねばならない」と。伊深の小川の水で喉を潤しながら、職務への決意と強歩大会の目指すものを知りました。

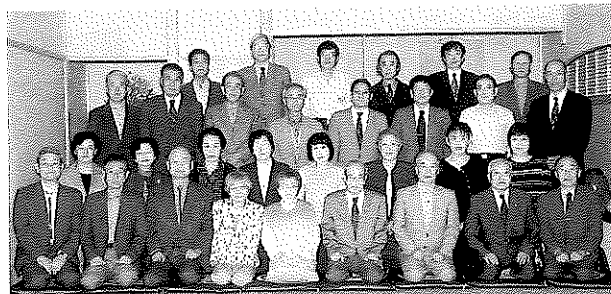
夕方五時に最終の集団が到着して人員確認が始まりましたが、出発者と帰着者のカードが一枚足りません。直ちに点検を行い不明者を探し出しますと、一年生の男子生徒の名前が挙がりました。時計は六時半をまわっていました。自宅に電話をかけるのと当人が出て、カードを出し忘れて下校したと申し出ました。

鈴木先生は「カードを持って家族と一緒に学校へ来るように」と指示され、間もなく、祖父と両親、本人、弟の五人が来校しました。鈴木先生が「お前の軽率な行動が、どれほど周囲の人に心配を掛けているか分かるか」と厳しく注意されました。すると、祖父が一步進み出て、「有難うございました。孫はこのことを生涯忘れないでしょう」とお

礼を言われました。息づまるような校長室の空気に温かいものが広がりました。

ここに紹介した生徒は、言うまでもなく現在は社会のリーダーとして活躍されています。私は思います。関高の礎は、生徒諸君が「前へ進もうとする力、自分を奮い立たせる力」を持っていてくれることにあるのだと。この力こそはこれからの社会を生きたために掛け替えのない貴重なものだ。この関高で共に学べたことを感謝しています。

(筆者は関高剣道部を全国大会に導いた名伯楽。平成八年三月離任)



懐かしい顔が...「関高職員OB会」最後列左が筆者。